

「魔法の植物」育て35年

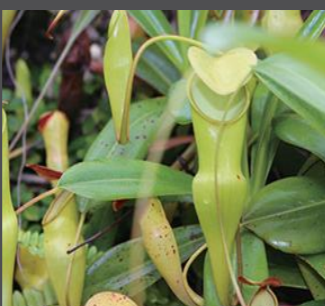
兵庫県立フラワーセンターに、ギネス世界記録を上回る大きさのウツボカズラがあることをご存知でしょうか。育てているのは、30年以上同園で食虫植物を見守り続け、愛好家から「食虫の神」と称されている土居寛文さんです。植物に対する熱い思いを伺ってきました。

甲子園球場の約30倍の広大な敷地をもつ兵庫県立フラワーセンター。四季の花室やベゴニア室が並び大温室の奥に育成温室があります。ここも広く、温室周りを歩くこと数分。植物に何やら話しかけながら水をやる男性の姿が見えました。つい先日、ギネス記録を上回る「ウツボカズラ」を育てた「食虫の神」、土居寛文さんです。この育成温室こそが土居さんの「職場」であり、世に出ている600種以上の食虫植物を日々育てています。

ひと通り水をやり終わると、「まあこっちに来いな」とニヤリとしながら食虫植物室に案内してくれました。

初めての出会い

「これは魔法の植物なんやで」。頭上をみるとウツボカズラの袋がたくさん目に入ります。続けて「世界でも、これだけ立派なペルテス・ペルビレイは中々ない。見ることが出来るのはここだけ。これも貴重なんや」と少年のような笑顔で我々に説明する土居さん。写真を撮影している最中も、自分の育てた植物にまつわる話が止まりません。



ネペンテス・ペルビレイ。これだけの規模で見られるのはフラワーセンターだけ

いました。当時は、病害虫の情報もなく原因を特定するのに苦戦。時間だけが過ぎていきました。そこで、診断図鑑をゼロから見返してホコリダニと特定。顕微鏡でないと見えないダニです。今では、こうした経験を持つ土居さんの元へ「弱った食虫植物を何とかしてほしい」と頼ってくる人も多いそうです。土居さんの日課は、園内の設備関係全般のチェックに始まる。NHKの気象リーダーを欠かさずチェックし、大雨や落雷がある時は深夜でも駆け付けます。「あいつらが心配な

花が好きだった母の影響で、物心ついた頃から植物や昆虫が大好きでした。家の裏山に行っては毎日のように虫を追いかけたといいます。小学校6年生になるころには花や雑草の名前は全部わかるレベルに。

ある日、クラスメイトから「こんな植物があるらしいで」と見せてくれた冊子に、緑色の袋に葉っぱが付いていて、液体の中に虫が沈んでいる絵が描かれています。土居さんが「ウツボカズラ」といいます。虫を食べる植物です」と書かれた説明を見て、「この液体は何や。こんなものが世の中にいるのか」と受けた衝撃は相当なものだったそうです。



土居さんが作った新品種の「ねひめ」。蓋の部分が反り返っていないのが特徴

25歳で担当者に

高校卒業後、園芸や、農業経営などが学べる九州の大学へ進学。学生時代はあまり食虫植物を育てるだけでなく、講演会や出張教室などの講師としても人気があり、年間20本をこなす。「10人いたら1人でもいい。食虫植物を入り口として、生き物に興味を持ち、そこから感情豊かな子どもたちが育てば」との思いから、講演会には、必ず植物を持っていき、参加者に触れて、感じる機会を作っているそうです。

果てしない野望

2年前には、(公財)日本植物園協会の認定制度である「ナショナルコレクション」にウツボカズラの野生種が認定されました。「標本になってしまったら終わりなんよ。絶やさ

や山野草には興味がなく、単位取得のための勉強に励みました。就職は、開園したばかりの淡路ファームパークへ。ここで3年間、花壇や樹木、芝生管理の担当として働きました。当時は「これがしたい」というものはなかったといいます。そして、昭和63年に兵庫県立フラワーセンターへ異動となります。

今では、600種以上数万株にもなる食虫植物のコレクションも、土居さんがやってきた昭和63年には、10種類しかありませんでした。小学生の時に冊子で見たウツボカズラとの出会いから、食虫植物との関わりは遠ざかっていたが、温室担当として配属された時、食虫植物にのめり込むきっかけが訪れます。「上司がうまく育てられへんかってな。土

居君やってみるか」と。食虫植物を引き受けることになったのです。25歳の時でした。

は、土居さんが子供のころから培ってきた観察力が活かされました。「魚や昆虫と同じで毎日見ていると段々分かってくる」。やせ地に自生する植物に、液肥をやっても駄目になってしまつと推測。肥料をやめ、砂利と苔で育てる方法を試してみたら、弱っていた植

ないためにも、生きた状態で後世に残していくことが大事」と登録することの意味を語ってくれました。

「ここへはウツボカズラを知らずに通り過ぎる人が多い。よく見ると1個1個顔が違うんです。あそこまでの姿を見れるのはここだけ。ぜひ興味を持って見に来て欲しい」と呼びかけました。

来年で定年を迎える土居さん。エネルギーは衰えておらず「ここで、BORDERBEREAK(ジャンルの壁を取り払った植物の総合イベント)をしてみたいんです」と次なる野望を告白。これは、植物を育てたいと思う人を増やすきっかけであり、今はいない後継者を見つける意味でもあります。「今年の秋に動きがあるかもね」。思い描く夢とともに土居さんの新たな物語が始まります。

物たちが息を吹き返しました。繊細なウツボカズラをうまく咲かせることができ「これは面白い」と夢中になり、買い付けやほかの植物園から分けてもらったりして、徐々にコレクションを増やしていききました。

突然訪れた異動

食虫植物の世界でその名を轟かせ始めたころ、広報課への異動を告げられます。5年間植物から離れることになり、その間は、広報誌作りや広告業者との調整、イベント管理など多忙を極め、「植物を見に行く余裕などなかった」と当時を振り返ります。いつしか食虫植物はポロポロになってしまい全滅の危機に瀕してしまいました。わが子、とかわいがる植物の変わり果てた表情を見て、居ても立っても居られず、業務終了後の深夜帯にラベルで印をつけ、翌朝担当者へ指示する毎日を送ります。その中で枯れずに残ったうちの1つが、今回ギネス記録を超える大きさとなった株だそうです。「毎日顔色を伺いながら世話をして、一人前になるまで最低30年はかかるんよ」。

原因不明の病気

平成17年、40歳を超えてベテランの域になりかけたころ、食虫植物の世界へ戻って行くことになりました。その時、わが子が原因不明の病気にかかりました。寄生された部分が茶褐色になり、葉は奇形葉になって

キラリびと vol.15

土居寛文 Hirofumi Doi

昭和37年生まれ。姫路市出身。高校、大学で園芸・造園について学ぶ。卒業後、淡路ファームパーク(現イングランドの丘)で3年間勤務し、昭和63年に兵庫県立フラワーセンターへ。食虫植物の栽培に精通しており、育てたウツボカズラは「ナショナルコレクション」にも登録されている。フラワーセンター以外にも年間20回以上の講演を精力的にこなす。

すっきゃ かい 7月 広報

表紙	01
キラリびと 土居寛文	02
特集	
SDGs × 学校給食	04
市政情報	08
TOPICS	
マイナンバーカード申請	08
マイナポイント第2弾	
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	19
わくわく子育て情報	25
そうだ! 図書館へ行こう	26
おくやみ/各種相談	27
とびだせ! かさいっ子	28
加西から広めよう世界の輪 みんなで使おう加西弁	

KASAI データバンク

R4.5.31 現在 (前月比)
 人口 / 42,494 人 (0)
 男 / 20,840 人 (4) 女 / 21,654 人 (-4)
 世帯数 / 18,287 (45)
 5月の出生数 / 18人 死亡数 / 34人
 ● 7/13、27 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)